

全体構想

学校教育目標 「自他を大切にして行動する生徒の育成」

生徒の実態①（授業アンケート等から）

- ・基礎基本の定着が不十分な生徒が、どの学年にも一定数存在している。
- ・自分の考えを記述する問題では、無回答率が多く、また出題者の意図に応じて、的確に記述したり表現する力が不足している。
- ・学校から出る課題以上の学習に、なかなか取り組めていない。
- ・10点アップ問題への取り組みは、この2年間で生徒たちに浸透してきており、反復して取り組む生徒が増えてきた。
- ・R7年度は、「先生は良いところを認めてくれている」と考える生徒は、国および県平均より10ポイント以上高くなっている。

生徒の実態②（授業アンケート等から）

- ・「授業は分かりやすい」と肯定的に考えている生徒は、R7年度全学年全教科平均93.5%となり、R5年度以降からの経年変化をみると、この3年間上昇傾向が見られている。
- ・自分で考えて学習に取り組むことが苦手、または学習に対して無力性の生徒が一定数存在している。また、家庭学習の定着に関しては下降傾向が見られている。
- ・R7年度は「自分の考えを説明したり文章に書いたりする」等、自分の考えをもつ場面に対しての肯定的評価は9割を超えたが、まだ1割弱の生徒は否定的に捉えている。

研究主題

主体的に考え、表現する生徒の育成
～見通しと自己決定の場を通して～

研究の重点

教員：課題設定の工夫…教科の見方、考え方に基づいて考えられるもの
（文脈の設定） 生徒発の「問い」、生徒のきもちを動かす課題かどうか？

生徒：解決の「見通し」をもって、「自己決定」したくなる！

一人一人の生徒を、全教科で育てる

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	英語	特支
----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----

校内研修会（全体会）

教科部会（年に10回程度実施）

- ・学校研究の重点項目における共通理解
- ・学力調査等の採点→分析→検証
- ・教科等資質能力シートの作成→分析→検証
- ・10点アップ問題の吟味→分析→検証
- ・家庭学習の内容に関する指導
- ・こまめな課題提出および点検→指導

学年会

- ・学年の学習指担当からの提案をもとに、学年の実態に応じた学力向上や家庭学習の充実、テスト対策などの取り組みについて検討
- ・代議委員会を中心とした家庭学習への取り組み推進、および10点アップ問題等の学習に関する配信等→学習環境の充実

土台：褒め・認めの言葉がけと授業規律（生徒指導：人間関係づくり）